

【概要版】

UBE city 2022~2031

宇部市産業振興計画

UBE City Industrial Promotion Plan

次世代へつながる活力に満ちた強い産業のまち

令和4年3月
宇部市

計画策定にあたって

● 計画策定の趣旨

近年、わが国の経済状況を見ると、生産年齢人口の減少、グローバル経済の進展、新型コロナウイルス感染症の影響などにより事業者の経営環境は非常に厳しい状況となっております。

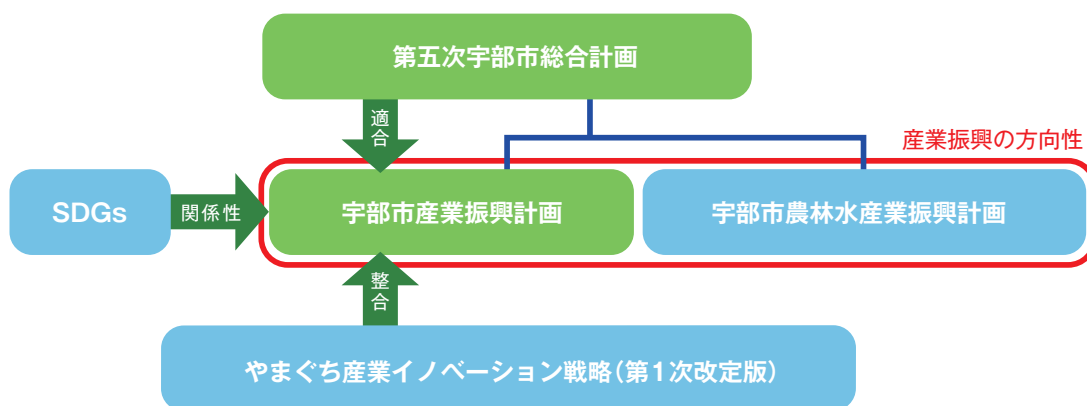
こうした状況下で、AI や IoT の活用など、ポストコロナに向けた経済構造の転換や好循環を実現させることが必要となっております。

今後、宇部市が持続可能な発展を遂げていくためには「共存同栄・協同一致」の精神のもと、次世代に向けた強い産業と魅力的な雇用の場の創出に向けて、産業振興に特化した個別計画が必要不可欠であることから、本計画を策定することとなりました。

● 計画の位置付け

本計画は、「第五次宇部市総合計画」を上位計画と位置付け、山口県の「やまぐち産業イノベーション戦略」との整合性を図り、「SDGs」との関係性を示します。

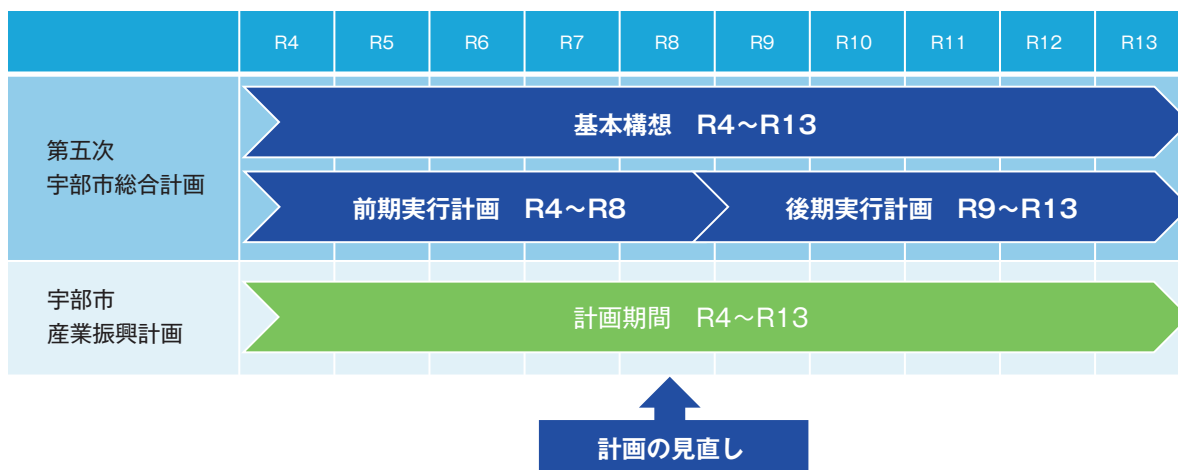
また、本計画は宇部市農林水産業振興計画とあわせて全産業を包括することとし、農林水産業を除いた産業振興の方向性を示すものとします。



● 計画期間

本計画は、上位計画との連携を図るため、第五次宇部市総合計画と同じ令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間を計画期間とします。

前半最終年度となる令和8年度（2026年度）を中間見直し年度と位置付け、各施策や事業の進捗状況と成果を検証し、また、社会経済情勢の変化に対応できるよう、計画策定から5年目に見直しを実施します。



宇部市における現状と課題

(1) 宇部市の産業を取り巻く環境における現状と課題

- 人口減少、高齢化率増
- 脱炭素化の流れが加速
- デジタル技術活用の機運醸成
- SDGs による持続可能な経営の追求
- 新型コロナウイルスによるライフスタイル変化

- ☑ 新たに成長が見込める分野の創出
- ☑ グローバル環境変化への対応
- ☑ オープンイノベーション・DXの推進
- ☑ 計画的な事業承継の推進
- ☑ グリーン、SDGs、新型コロナ、健康経営などへの対応

(2) うべの立地特性における現状と課題

- 充実した市内交通輸送
- 恵まれた操業環境だが、低い開廃業率
- 学生は多いが就職等で転出傾向
- 人材が集まらないことが立地のデメリット

- ☑ 恵まれた交通インフラ環境を活かした起業・創業、事業創造、企業誘致
- ☑ 産学連携、企業連携しやすい環境づくり・人材支援
- ☑ 学生と企業のマッチング等による市内定着率向上
- ☑ 魅力的な産業や職場の創出、人材確保に向けた取組

(3) うべの産業特性における現状と課題

- 事業所数は減少、従業者数は医療、福祉で増加
- 化学工業が基幹産業
- 建設業などで売上好調
- 健康経営の認知度が低く、認定企業数は低調
- 課題は人材関連や売上の伸び悩み
- 高齢者雇用、女性活躍推進の制度活用は不十分

- ☑ 化学工業、医療、福祉をはじめとしたうべの産業の強みを活かした産業力の強化
- ☑ さらなる優良企業への変貌、市の産業を牽引していく仕組みづくり
- ☑ 人材確保・育成に関する問題解消、働きやすい環境づくり
- ☑ 高齢者雇用、女性活躍推進などの制度活用を促す取組

(4) うべのビジネス環境における現状と課題

- 有効求人倍率が高いが希望職種とミスマッチの可能性
- 事業所の市内取引が多い
- 商工会議所や金融機関などとのつながりが強い
- 観光客は増加傾向、県内からの入込が8割

- ☑ 求職者にとって市内企業が魅力的になるための取組
- ☑ 安定した域内取引継続のため、金融機関や商工会議所などの連携強化
- ☑ 市内企業の域外進出など資本を流入させるための取組
- ☑ 市内の企業や観光地の魅力を効果的に発信

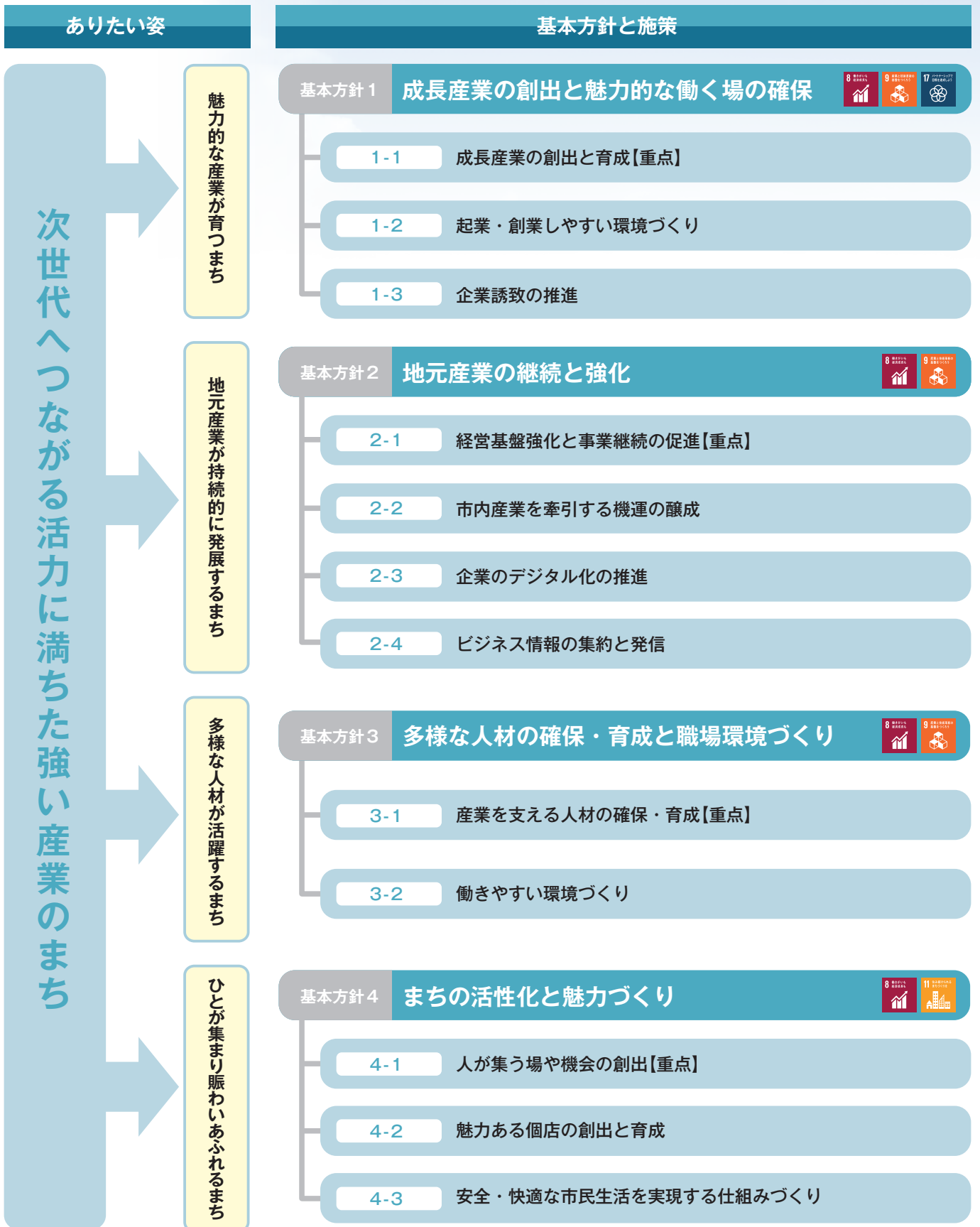
(5) 市民生活との関係における現状と課題

- 宇部市の人口は減少傾向、高齢化の進展による労働力低下、さらなる医療・介護ニーズの上昇
- 事業者の地元商業地域の活性化に対する評価は低い
- 住民1人あたりの雇用者報酬は県内6位で全国平均を下回る

- ☑ 高齢化を支える医療・介護をはじめとした産業力の強化
- ☑ 市民ニーズにあった魅力的な買物空間や居場所づくり
- ☑ 豊かな市民生活実現のための雇用者報酬の向上

施策体系

本市が取り組むべき産業振興に関する方向性と施策の関係について、以下のとおり施策体系として整理しました。この施策体系に基づき、各種施策を効果的に推進していきます。



重点施策及び EBPM 方式による政策推進

1 | 政策推進の考え方

EBPM (Evidence-Based Policy Making) とは、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用して、政策の有効性を整理・確認するものです。

本計画では、各基本方針の中で、中心となる施策を中心に重点施策を組み立てます。各基本方針についてのありたい姿を想定し、評価手法の設定から立案、指標の管理、そして重点施策の進捗確認を着実に進めていきます。

2 | 4つの重点施策

4つの重点施策のロジックモデルは以下の通りになっています。



3 | 目標指標

	目標指標	目標値(令和8年度)
計画全体	市内総生産(1次産業除く)	651,630 百万円
	市民1人あたりの雇用者報酬	2,220 千円
基本方針1 成長産業の創出と魅力的な働く場の確保	成長産業創出等により 生まれた起業・事業化件数	65 件 (累計)
基本方針2 地元産業の継続と強化	業績良好企業の割合	23.0%
基本方針3 多様な人材の確保・育成と職場環境づくり	従業員の採用状況が順調である割合	30.0%
	大学生等の市内就職割合	14.6%
基本方針4 まちの活性化と魅力づくり	卸売・小売業、 宿泊・飲食サービス業の市内総生産	75,345 百万円

計画の推進にあたって

1 | 計画の推進体制について

宇部市産業振興計画推進委員会を設置し、各施策や事業の進捗管理や計画遂行の検証を行っていただくとともに、社会情勢などの変化に対応した新規施策や事業の検討、既存施策の見直し、改善を図ります。

当該組織は、本計画策定委員会と同様に事業者や中小企業団体、大学などの学識経験者、金融機関などで構成する共創による推進体制とする予定です。

2 | 計画の進捗管理

今後、各施策に関連する個別事業のうち、主要な指標の状況等を可能な限り把握することが必要です。事業の進捗度合を確認していくために、PDCAサイクルを意識し、目的・目標の伴った事業の計画(Plan)、事業実施(Do)、活動及び成果の測定・評価(Check)、見直し(Action)の考え方を導入することで、事業の効果を高めながら、本計画の進捗管理を行っていきます。

